

5-3 技術者教育とその継続

令和元年（2019年）6月に公布・施行された改正品確法では、「公共工事の品質は、施工技術及び調査等に関する技術の維持向上が図られ、並びにそれらを有する者等が公共工事の品質確保の担い手として中長期的に育成され、及び確保されることにより、将来にわたり確保されなければならない。」（第1章 総則 基本理念 第3条 3）として、調査・設計の重要性を示した。

この基本理念の下で、建設コンサルタントは知的産業として、技術の信頼性を高め、社会資本の安全性と効率性を十分に確保する努力を続ける社会的責務を負っている。したがって、建設コンサルタント技術者は、職業倫理を備えるとともに、自身の技術力向上、最新の技術や社会情勢の変化を継続的に学習する努力義務が求められる。

5-3-1 協会における技術者教育と技術者資格

（1）技術者教育

技術力向上等に当たっては、自らがスキルアップできる仕組みが必要であり、協会では広く技術者の継続的な自己研鑽活動をサポートしている。技術者教育の柱である継続教育（Continuing Professional Development：CPD）制度は、具体的に講習会等への参加（受講）、論文等の発表、企業内研修、技術指導、業務経験、自己学習等を通じて、継続的に自己の知識・技術の幅を広げ、技術の水準を高めることを目的として制定・運用されている。

（2）技術者資格

建設コンサルタント業務においては、管理技術者及び照査技術者を定め、業務の適正な執行管理と業務成果の照査を行う必要がある。国土交通省や大半の地方公共団体等は、この管理技術者及び照査技術者に対し技術士、RCCM等の技術者資格が要件となっており、建設コンサルタント業務に関わる責任ある技術者にはこれらの技術者資格が必要不可欠である。

RCCM（Registered Civil Engineering Consulting Manager、シビルコンサルティングマネージャ）制度は、建設コンサルタント業務実施において、「技術者の技術力向上」と「品質の確保」の必要性を謳った建設省（現国土交通省）の重点施策に沿って、平成3年度（1991年度）に建設コンサルタンツ協会により創設された。建設コンサルタント業務にあつては技術士資格と並んで重要な資格である。

令和2年度（2020年度）のRCCM資格試験はコロナ禍で中止となったが、令和3年度（2021年度）はRCCM資格制度の重要性を踏まえ、万全の感染防止対策の下で試験が実施できるようCBT試験（Computer Based Testing：コンピュータを利用した試験方式。試験は解答用紙やマークシートへ記述するのではなく、キーボード、マウスを利用して、すべてコンピュータで解答する。）を導入するとともに、更新登録のWeb化、Webを活用した自主学習の改善を進めている。

また、令和2年度（2020年度）に予定していたRCCM資格登録に必要なCPD単位について、現行の「100単位／4年」から「200単位／4年」への変更を見合わせ、令和3年度（2021年度）以降の運用を以下のとおりとした。

- ・令和3年（2021年）4月1日以降、150単位／4年。
- ・令和7年（2025年）4月1日以降、当初規定どおり200単位／4年。

5-3-2 協会における CPD 制度の概要

(1) CPD 制度の概要

協会では、建設コンサルタント技術者及び RCCM 資格登録者に CPD 登録の機会を提供し、サービスの充実を図るとともに、講習会・セミナー等の受講や研究活動を通じた継続教育の機会を提供している。

平成 17 年（2005 年）4 月に CPD 制度の運用を開始、平成 18 年（2006 年）1 月より協会ホームページ上で CPD システムを本格稼働し、協会 CPD 会員が「CPD 記録の登録」「CPD 記録の確認」「CPD 記録証明書の発行申請」を Web 上でできるサービスを開始した。また、平成 22 年度（2010 年度）から RCCM 資格登録者に対して、更新登録時等に所要の CPD 単位数取得を義務付けし運用している。

協会の CPD 制度は、会員企業の社員だけに限らず広く建設コンサルタント技術者の CPD を支援することを特徴とする。そのため、CPD プログラム情報提供、新規 CPD 登録や CPD 記録登録の受付等、サービスの充実を図ってきている。また、会員各社の積極的な企業内研修や会員個人の資格取得の登録実態を踏まえ、CPD 登録の教育分野及び内容、CPD 単位数や上限値の見直しを行い、『CPD ガイドライン（第 7 版）2021 年 4 月』及び『CPD 解説書（第 7 版）2021 年 4 月』をとりまとめた。

(2) 協会の CPD プログラム

提供する CPD プログラムのテーマについては、教育対象者の多様性を考慮して、なるべく特定分野に偏ることがなく、今日的な主題を提供するよう留意している。協会の本部、支部が主催するもののほか、共催、協賛、後援するものも併せ、内容を審査して認定しており、下記の 4 原則（①から④のいずれか）に該当する内容を満足するものとしている。

- ①最新技術動向の理解に役立つ内容【技術動向】
- ②建設コンサルタントを取り巻く状況の理解に役立つ内容【社会性】
- ③建設コンサルタントが携わる関連分野の理解に役立つ内容【総合性】
- ④建設コンサルタントとしての倫理観の涵養に役立つ内容【技術者倫理】

また、協会ではセミナーに参加できない会員向けに、平成 27 年度（2015 年度）から平成 29 年度（2017 年度）において協会主催のセミナーの DVD を会員会社に無料配布を行い、それを視聴することで CPD 記録として認定できるようにした。さらに、平成 28 年度（2016 年度）より協会開催のセミナーを撮影・編集し、協会会員ホームページ内で『JCCA Web 講習システム（セミナー動画配信）』による CPD 取得機会を提供してきた。

5-3-3 CPD 制度の今後の動向

国土交通省では、総合評価落札方式の発注工事において技術者の評価項目に CPD 単位の取得状況が盛り込まれており、地方公共団体においても採用されるケースが出ている。

協会ではこれまでも CPD 取得機会を提供してきており、当協会への CPD 申請件数は年々増加傾向にある（図 5-3-1）。

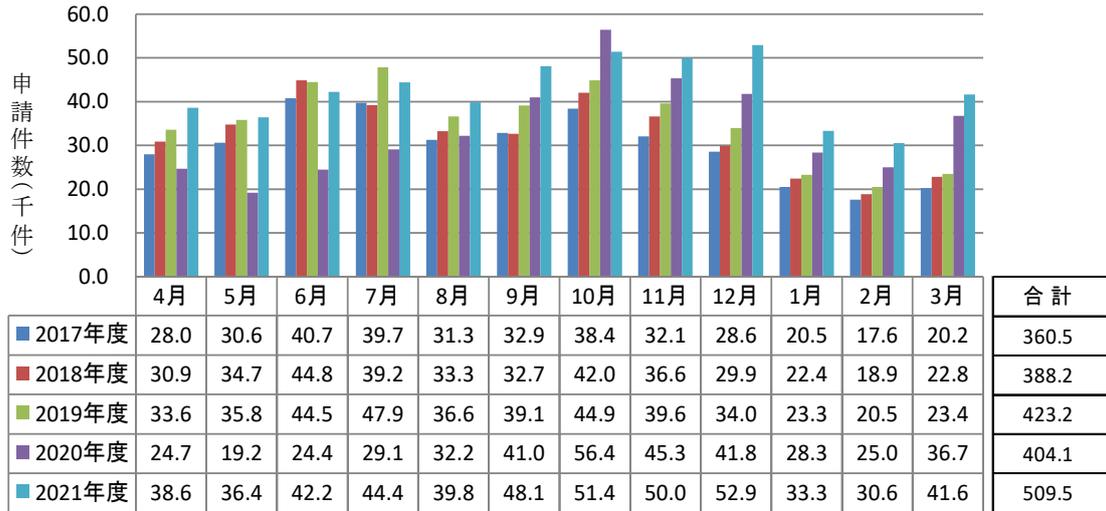
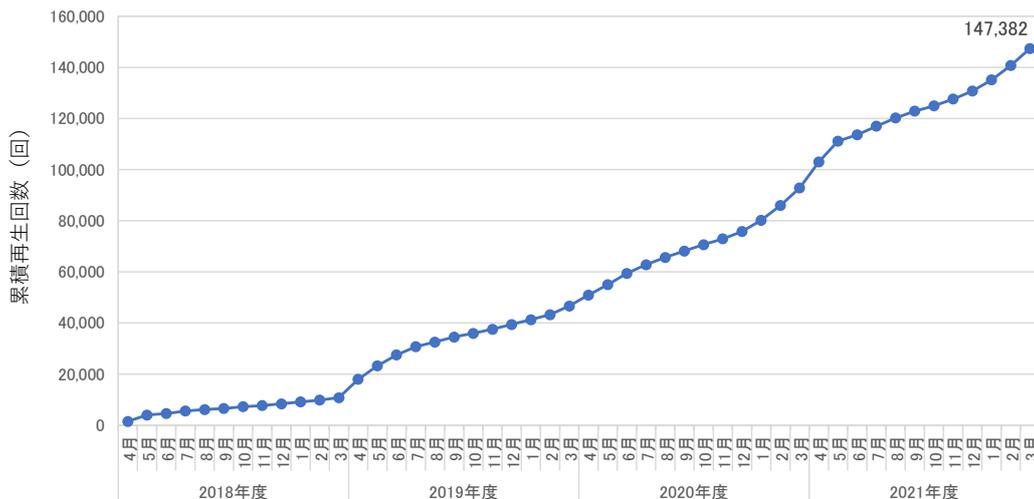


図 5-3-1 CPD 申請件数状況

令和3年度（2021年度）は、コロナ禍で集合研修はライブ配信形式で実施したが、CPD認定プログラム数はそれ以前の水準までは戻らず、CPD取得が困難な事態が継続していた。

そのため、当協会では、集合研修開催中止を検討している委員会やライブ配信を実施する委員会へ、セミナー動画 Web 配信の推進を働きかけた。さらに、これまで協会会員専用ホームページでセミナー動画を配信してきたが、CPD取得の機会を広げていくため、令和3年（2021年）6月1日より、新たに「JCCA Web 講習システム」として運営を開始した。委員会向けには新システムでの動画配信の手順書の提供や支援を行い、セミナー動画をより多く配信することにより、CPD取得機会の創出に寄与してきた（図 5-3-2）。集合研修のライブ配信や、セミナー動画の Web 配信の推進等により CPD 申請件数は、令和元年度（2019年度）以前よりも増加傾向にある。



注) 令和3年（2021年）6月より動画配信システムが変わったため、再生回数のカウント方法が変更になっている。

図 5-3-2 協会 HP のセミナー動画累積再生回数

平成15年（2003年）7月に関連19団体で設立された建設系CPD協議会では、建設系分野に係わる技術者の便宜を図ることを目的に、各学協会と連携をとりつつ相互協力することとなった。

その一環として、建設系 CPD 協議会では平成 17 年（2005 年）7 月にホームページを開設し、建設系技術者に幅広く横断的に CPD プログラムを提供することを目的とした「プログラム情報検索・閲覧システム」を公開している。これにより、多くの CPD プログラムの中から、自分のニーズに合った CPD プログラムを選択することが可能になった。協会は、設立当初から建設系 CPD 協議会に加盟し、平成 24 年度（2012 年度）、平成 25 年度（2013 年度）には建設系 CPD 協議会の事務局を担当した。

協会においては、今後とも、建設コンサルタントとしての継続教育に関する支援を実施するとともに、建設系 CPD 協議会と意見交換に努め、連携を図っていく。

〔建設系 CPD 協議会加盟団体〕

- ・（公社）空気調和・衛生工学会
- ・（一社）建設コンサルタンツ協会
- ・（公社）地盤工学会
- ・（公社）全国上下水道コンサルタント協会
- ・（一社）全国土木施工管理技士会連合会
- ・土質・地質技術者生涯学習協議会
- ・（一社）日本環境アセスメント協会
- ・（公社）日本建築士会連合会
- ・（公社）日本造園学会
- ・（公社）農業農村工学会
- ・（一財）建設業振興基金
- ・（一社）交通工学研究会
- ・（公社）森林・自然環境技術教育研究センター
- ・（一社）全国測量設計業協会連合会
- ・（一社）全日本建設技術協会
- ・（公社）土木学会
- ・（公社）日本技術士会
- ・（公社）日本コンクリート工学会
- ・（公社）日本都市計画学会

（五十音順・令和 4 年（2022 年）1 月現在）